

恵海「2012 年、起きろ、飛び出せ、日本」日本経済新聞 2011 年 12 月 16 日刊を読む

2012 年「起きろ、飛び出せ、日本」

1. (1) 20 年もの停滞に安住し国内に引きこもる日本。
(2) 数年前まで援助や技術を懇願していた途上国から「もうお金もない終わった国」とやゆされ始めた日本。
(3) CO₂ 削減、水質浄化など最先端技術を世界に十分供給せず存在感を示せない日本。
2. (1) 国民が高福祉は高負担との大原則を忘れ、
(2) 国家にのみ過大な負担を押しつけ財政を大きく悪化させた日本。
3. (1) ①自らの国を自ら守るという独立の気概を失い、
②日本固有の領土の長期不法占拠を許し、
③奪還の措置を行わない日本。
(2) ①世界には寝食を忘れ勉学に励む多数の学生がいるにもかかわらず、
②低学力の若者を量産しているだけの日本。
4. (1) 政策金利がゼロ近傍に張り付き金利機能が働かない状況が 15 年も継続しているが、
(2) リスクを恐れ大胆な政策を全く実行できない日本。
5. (1) 巨大地震、大津波、原発事故の三大災害が平安を貪っていた日本を覚醒させる絶好の機会であったが、
(2) 企業も家計も政府も国会も自己変革を怠り、
(3) 再び安逸な昼寝に入ろうとしている。
6. (1) この間、日本を取り巻く世界の状況は悪化の一途をたどっている。
(2) 欧州連合(EU)は、先週の首脳会議で合意した財政規律確保の評価が低く、混乱は長期化する。
(3) 中国、ブラジル、インドの成長率はすでに減速している。
(4) 米国は二番底は回避できそうだが回復力は弱い。
7. (1) 外部環境が一段と悪化する下で、引きこもりや昼寝は座して国家の衰亡を待つと同様だ。
(2) 来年こそ日本は未来に向かい飛び出さねばならない。
8. (1) 第 1 に、
①年初の国会で消費税率の 2013 年からの引き上げ、
②社会保障改革、国会議員・国家公務員・地方公務員の削減を決定する。
(2) 第 2 に、
①普天間問題を決着させ、

- ②米国、オーストラリアと協力し、
- ③シーレーン(海上交通路)の確保に努め
- ④アジアの安定に貢献する。

(3)第3に、

- ①輸出優遇策、
- ②海外 M&A(合併・買収)推進策を実行し、
- ③貿易収支の黒字、
- ④投資収益の一層の拡大を図る。
- ⑤海外で買収した企業に家族と共に 20 ～ 30 年勤務する体制を整備する。

(4)第4に、

- ①大学・大学院の質をさらに上げ、大学間の格差は当然のこととする。
- ②小学校からの英語と武道(柔道・剣道)教育を徹底する。

(5)第5に、

- ① 1970 年代まで存在した貯蓄増強運動を復活し、
- ②国債の国内消化の継続に備える。

9. (1)来年はこれら施策を着実に実行し、
(2)国家存亡の危機に備えなければならない。

[コメント]

恵海氏が示して下さった 2012 年「**起きろ、飛び出せ、日本**」の一項目、一項目を綿密に読み込み、その真の意味の理解に努めた上で、一項目ずつ着実に実行に移すことでこの危機を乗り越えたい。いつものことながら、この本文は時宜を得た珠玉の論文、指導書、ガイドラインと考える。

－ 2011 年 12 月 16 日 林 明夫記 －